

## 生産性向上支援訓練カリキュラム

A. バックオフィス	社内外の連携強化を図るためにデータの管理方法を学ぼう！
システム導入	<b>データ活用で進める業務連携</b>

コースの ねらい	所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。
-------------	--

対 象	(中堅・管理者層向け) ・部署間の連携を進める手がかりを知りたい方 ・所有するデータの品質管理・活用を行いたい方
-----	--

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	データ活用の基本	(1) データ活用の必要性 デジタル技術を駆使してDXを実行できるかが、企業の競争力強化、持続的成長の可否を左右する最重要課題として位置づけていることを確認する。  (2) データ活用のメリット【演習あり】 事例紹介を通じて、データを活用することによどのようなメリットがあるのかを確認する。  (3) データと情報の違い【演習あり】 「情報」を「データ」に「価値」を付加したものと捉えらる考え方を確認し、データは保有するだけでなく「活用」が重要となることを学ぶ。	2.5
	2	データマネジメント	(1) データマネジメントとは 正しいデータを、使いたいタイミングで使えるように、データを適切に管理する仕組みが「データマネジメント」であり、具体的には「データを蓄積しておく仕組みの構築や維持」「データ構造の可視化」「データの意味管理」「責任体制の確立」などがあることを確認する。  (2) データマネジメントの対象【演習あり】 データマネジメントの対象となるデータには「ビジネスデータ」と「メタデータ」の2つがあり、「ビジネスデータ」はさらに「構造化データ」と「非構造化データ」に分割できることを確認する。  (3) データマネジメントの4つの活動【演習あり】 データマネジメントの具体的な活動を「戦略策定・計画」「データの設計」「データ蓄積の仕組み構築・維持」「データ活用」に整理し、それぞれの概要を確認する。	2.5
	3	データ活用と業務の連携	(1) データ活用による業務連携【演習あり】 データ連携基盤が実現できた場合、①どんなデータを新たに収集して、②どんな情報を得たいかを検討する。  (2) データ分析ナレッジが溜まる仕掛けづくり 困り込みされやすいデータ分析ナレッジを共有することの重要性、共有される仕組みを作る際の留意点を確認する。	1.0
演 習	主な内容に記載のとおり、各章で演習を実施します。一部演習内容としては次のとおりです。 1. データ活用の基本: データ活用の可能性を自身に当てはめる。自分の周囲のデータを棚卸しする。 2. データマネジメント: データ分析でできることをイメージする 3. データ活用と業務の連携: (1) 新たに得たいデータと情報をイメージする。			基本項目 に含む
合計時間				6.0

カリキュラム作成のポイント	本カリキュラムは、データ活用に関する基礎的な知識を習得し、自社に適用できることを検討することを学習到達目標としています。
---------------	--

備考	
----	--